

野菜の需給・価格動向レポート(平成23年12月19日版)

平成23年12月19日  
野菜需給部

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	11月の価格動向			12月の価格動向			生育及び価格の12月の見通し	
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格		指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格		指定野菜の関 東・近畿ブロック 旬別平均販売価 額		
	中旬	下旬	上旬					
葉 茎 菜	キャベツ	66.3	54	53	66.3	61	・入荷見込量：13,312t (102) ・主産地：愛知(51)、千葉(30)、神奈川(9)、茨城(7)	・愛知産及び千葉産は、好天の影響で生育が進み順調な出荷となっており、今後も順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		69.92	57	59	69.92	63	・入荷見込量：3,700t (105) ・主産地：愛知(50)、兵庫(9)、大阪(8)	
	ねぎ (関東：白ねぎ 関西：青ねぎ)	218.22	161	189	218.22	188	・入荷見込数量：5,977t (102) ・主産地：千葉(25)、埼玉(19)、茨城(14)、群馬(10)、栃木(7)、輸入(3)	・千葉産は、順調な生育で、平年並みの出荷となっている。埼玉産は、台風の影響もあり少なめの出荷となっている。茨城産は、11月出荷のものがあとぞれして、12月は潤沢な出荷量になっている。 ・順調な出荷が見込まれるが、年末に向けて需要も高まつくると思われることから、価格は平年並みで推移する見込み。
		444.77	244	293	444.77	310	・入荷見込数量：240t (96) ・主産地：徳島(27)、大阪(16)、高知(15)、奈良(13)、香川(8)、三重(6)	
	はくさい	36.65	32	29	36.65	32	・入荷見込量：14,599t (105) ・主産地：茨城(97)	・茨城産は、好天の影響で生育もよくピークを迎えており。今後も順調な出荷で平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		53.29	47	52	53.29	51	・入荷見込量：5,600t (106) ・主産地：愛知(21)、茨城(19)、熊本(17)、和歌山(13)、福岡(10)、岡山(8)、大分(6)	
	ほうれんそう	350.1	233	269	350.1	343	・入荷見込量：1,961t (98) ・主産地：群馬(39)、千葉(20)、埼玉(18)、茨城(14)	・群馬産は、前進化の影響で多めの出荷となっていたが、冷え込みとともに減少し、全体的には少なめの出荷となっている。千葉産及び埼玉産は、生育の前進化はみられるが、平年並みの出荷となっている。 ・今後は、少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。
		419.76	285	334	419.76	395	・入荷見込量：570t (90) ・主産地：徳島(48)、福岡(24)、岐阜(9)、群馬(7)	
	レタス	136.79	90	139	233.85	151	・入荷見込量：8,221t (99) ・主産地：静岡(30)、茨城(22)、兵庫(14)、香川(9)、千葉(5)、福岡(3)	・静岡産は、好天により生育が進み、本格的な出荷になっている。出荷量は多いが、定植時期の高温の影響により、根の張りが悪く秀品率が低い。茨城産は、上旬で出荷終了。兵庫産は、天候の回復とともに秀品率が上がり、肥大も良好で前年を上回る出荷となり、下旬には増加する見込み。 ・出荷は順調であるものの秀品率が低いことから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		147.25	114	149	226.75	144	・入荷見込量：1,450t (92) ・主産地：兵庫(55)、徳島(22)、香川(7)	
果 菜	たまねぎ	76.15	88	86	76.15	86	・入荷見込量：9,063t (104) ・主産地：北海道(78)、輸入(6)	・北海道産は、収穫作業が終了。全体の出荷量は前年よりは多いが、平年には届かない見込み。 ・平年より少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.15	91	87	76.15	87	・入荷見込量：3,400t (105) ・主産地：北海道(52)、兵庫(38)	
	きゅうり	262.75	313	375	370.98	421	・入荷見込量：4,810t (100) ・主産地：宮崎(33)、千葉(21)、高知(18)、埼玉(16)	・宮崎産は、曇天の影響で少なめの出荷となっている。今後は好天により生育が回復し、徐々に出荷量が増加すると見込まれるが、急激に増加することはなく、年内は前年には届かない見込み。千葉産は、順調で平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		284.72	345	361	350.33	399	・入荷見込量：1,000t (95) ・主産地：宮崎(54)、高知(20)、徳島(14)	
	トマト	315.83	398	448	332.6	446	・入荷見込量：4,810t (100) ・主産地：熊本(44)、愛知(19)、千葉(10)、静岡(6)	・熊本産は、曇天等の影響で小玉傾向となり、前年より少なめの出荷となっている。今後は生育が回復し、出荷量が増加すると見込まれるが、急激には増加することはない見込み。愛知産は、順調で平年並みの出荷の見込み。 ・熊本産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		337.88	390	438	311.06	428	・入荷見込量：840t (101) ・主産地：熊本(40)、愛知(15)、佐賀(15)、徳島(10)	
	なす	316.84	294	360	389.03	390	・入荷見込量：1,711t (99) ・主産地：高知(61)、福岡(19)、佐賀(7)	・高知産は、冷え込み等の影響で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。福岡産も、曇天の影響で着果が悪く少なめの出荷になっている。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。
		277.06	278	358	397.74	394	・入荷見込量：280t (99) ・主産地：高知(34)、熊本(22)、福岡(21)、岡山(13)	
	ピーマン	344.39	263	340	344.39	411	・入荷見込量：1,440t (98) ・主産地：茨城(48)、宮崎(24)、高知(14)、鹿児島(14)	・茨城産は、冷え込みのためやや少なめの出荷となっている。宮崎産は、曇雨天の影響で着果が悪く少なめの出荷となり、今後も前年の出荷には届かない見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		353.61	278	323	353.61	451	・入荷見込量：290t (107) ・主産地：宮崎(60)、高知(25)、鹿児島(10)	
根 菜	だいこん	64.33	55	45	64.33	49	・入荷見込量：13,816t (102) ・主産地：千葉(47)、神奈川(43)	・千葉産及び神奈川産は、順調な生育で肥大が進み、潤沢な出荷となっている。年内は潤沢な出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		76.48	69	65	76.48	65	・入荷見込量：3,800t (101) ・主産地：長崎(30)、徳島(25)、和歌山(22)、鹿児島(12)	
	にんじん	100.82	95	82	100.82	79	・入荷見込量：9,742t (116) ・主産地：千葉(76)、埼玉(8)、茨城(6)	・千葉産及び埼玉産は、順調な生育で肥大が進み、潤沢な出荷となっている。年内は潤沢な出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。
		104.49	109	107	104.49	121	・入荷見込量：2,400t (106) ・主産地：長崎(59)、鳥取(13)、愛知(9)、鹿児島(9)、宮崎(7)	

種類	11月の価格動向			12月の価格動向			生育及び価格の12月の見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			
		中旬	下旬		上旬			
いも	さといも	200.88	190	187	200.88	219	・入荷見込量：1,914t (108) ・主産地：埼玉(51)、千葉(20)、輸入(4)、栃木(4)	
	ばれいしょ	207.2	273	273	207.2	282	・入荷見込量：344t (-) ・主産地：愛媛(23)、宮崎(13)	
いも	さといも	88.17	108	104	88.17	101	・入荷見込量：7,417t (105) ・主産地：北海道(81)	
	ばれいしょ	88.17	99	98	88.17	96	・入荷見込量：3,800t (105) ・主産地：北海道(72)、長崎(25)	

1) 平均価格は、過去9年間又は6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。  
2) 旬別平均販売価額の背景なしあ、保証基準額を上回るもの。背景ありは、下回るもの(消費税は除く。)。  
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもの近畿は前年実績。  
5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

## 2 野菜の需要動向

家計調査でみると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、5,037gで前年比101%、購入金額は、1,884円で同96%となり、購入量は前年並み、購入金額は前年をやや下回った。	生鮮野菜の購入量及び金額 (1人当たりの購入量、金額)						主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位:円/kg)	
	年過去5か年平均		平成22年		平成23年			
月	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	前年比	金額(円)	前年比
1月	4,189	1,529	4,240	1,551	4,310	102	1,573	101
2月	4,391	1,544	4,461	1,574	4,267	96	1,629	103
3月	4,767	1,695	4,970	1,768	4,867	98	1,788	101
4月	4,732	1,808	4,518	1,884	4,796	106	1,789	95
5月	5,094	1,902	4,925	1,965	5,171	105	1,820	93
6月	5,033	1,880	5,026	1,907	4,904	98	1,857	97
7月	4,438	1,683	4,264	1,697	4,362	102	1,759	104
8月	4,272	1,732	4,241	1,733	4,392	104	1,717	99
9月	4,868	1,806	4,606	1,818	4,598	100	1,803	99
10月	5,314	1,849	4,994	1,959	5,037	101	1,884	96
11月	4,997	1,614	4,678	1,774	0	0	0	0
12月	5,212	1,817	5,177	1,887	0	0	0	0

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移  
(単位:円/kg)

	キャベツ		レタス	
	過去5か年平均	平成23年	過去5か年平均	平成23年
1月	189	186	98	618
2月	173	228	132	496
3月	181	206	114	455
4月	250	195	78	464
5月	185	127	69	399
6月	159	106	67	360
7月	154	174	113	320
8月	170	123	72	493
9月	159	148	93	483
10月	158	187	118	474
11月	155	147	95	359
12月	146	0	442	0

1) 過去5か年は平成18~22年の平均

2) 11月の値は、11月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

## 3 野菜の輸入動向

平成23年11月の輸入を植物防疫統計でみると、たまねぎは前年比79% (中国は同96%、米国は同57%) の3万3千トン、にんじんは同76% (中国は同83%、オーストラリアは同17%) の4千トン、ねぎは同74% (中国は同74%) の3千トンとなり、いずれも輸入が多かった前年を大幅に下回った。	野菜の輸入数量の推移 (単位:トン、%)						主な野菜の輸入動向 (単位:トン、%)		
	区分	平成21年		平成22年		平成23年1~10月			
		年	前年比	年	前年比	年	前年同期比	年	前年同月比
生鮮野菜	生鮮野菜	615,271	102	820,687	133	765,960	119	114	
加工野菜	加工野菜	1,569,627	95	1,677,840	107	1,478,203	107	115	
野菜合計	野菜合計	2,184,898	97	2,498,527	114	2,244,163	111	115	
うち中国産野菜合計	うち中国産野菜合計	1,098,415	95	1,284,449	117	1,153,723	113	117	
中国産シェア	中国産シェア	50		51		51			

資料:ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

品目	輸入先	(A)2010.11		(B)2011.11		(B)/(A)	
		(A)2010.11	(B)2011.11	(B)/(A)	(B)/(A)	(B)/(A)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	41,361	32,663	79			
	中国	23,304	22,292	96			
	米国	18,056	10,371	57			
にんじん	合計	5,181	3,913	76			
	中国	4,573	3,781	83			
	オーストラリア	574	96	17			
ねぎ	合計	4,714	3,466	74			
	中国	4,711	3,464	74			

資料:農林水産省「植物防疫統計」。(2011.11)は、速報値である。

平成23年1月から11月までのたまねぎの輸入量は、前年同期比11%と前年を大幅に上回り、この5年の中でもっとも、最高の水準となった。これは、北海道産が22年の不作により前半の輸入量が多かったことに加え、23年産も夏場の多雨と9月の台風等の影響により不作傾向であることが影響していると思われる。輸入国の内訳をみると、中国産の占める割合が大きいが、22年~23年にかけては、米国産が増加し、全体の2割程度を占めている。中国産はむきたまねぎが約7割を占め、主として業務用として一定の需要があるが、米国産は国内産の代替として家計消費用として量販店等で販売されているものが多い。今後も、来年春までは北海道産の出荷が少なめと見込まれること、円高等の影響で輸入単価が低いこと等から、高い水準の輸入が続くことが予想される。

